

もっと知りたい方のための **Q&A**

**Q1** 実際には  
どれくらいの影響があるの？

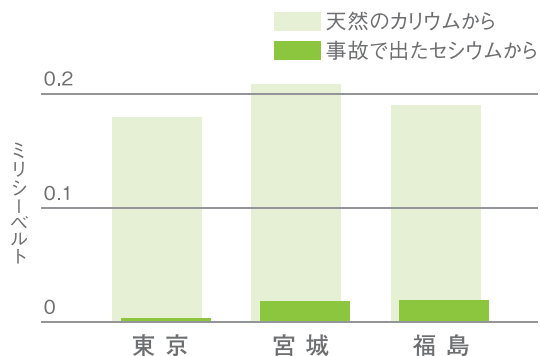
原発事故のために、実際の食品から受ける線量を調べたところ、ごくわずかでした。

2011年秋に各地で購入した食品を検査し、含まれていた放射性セシウムから、その食品を1年間食べたときに受ける放射線の線量を推計すると、0.003(東京)~0.02(福島)ミリシーベルトでした。これは、同じ食品にもともと含まれる、天然の放射性物質(カリウム40)からの線量が、約0.2ミリシーベルトであった\*のと比べても、ずっと少ない量です。

同じ線量であれば、原発事故による放射性物質も、天然の放射性物質も、そこから出る放射線による人体への影響は同じです。

\*食品に含まれる天然の放射性物質には、カリウム40のほか、鉛などがあり、合計では、年間約0.4ミリシーベルトの線量になります。

食品に含まれる放射性物質からの被ばく線量(1年分)



**Q2** セシウムだけ測定されているけれど、セシウム以外の放射性物質の影響は？

セシウム以外の影響も考慮して、基準値を設定しました。

基準値を設定する際、セシウムだけでなく、事故で放出された放射性物質のうち、ストロンチウム90など、半減期1年以上のものの影響をすべて考慮しました。

具体的には、セシウムからの影響が大半であり、セシウム以外は測定にきわめて時間がかかるので、ほかの放射性物質の影響を計算に含めたうえで、セシウムを指標として用いています。半減期が短く、8日で半分(1年では1兆分の1以下)に減少するヨウ素は、事故当初に多く検出されましたが、今では検出されることはありません。

自然界の放射線

私たちは、宇宙や土、食品など、自然からも放射線を受けています。

食品中のカリウムなどからだけでなく、宇宙線、空気や土壌からの放射線もあり、合計すると、私たちが1年間に受ける放射線の線量は、約1.5ミリシーベルトです。



もっと詳しい情報は、厚生労働省ホームページ「食品中の放射性物質への対応」へ。

食品 放射性物質

バーコード読み取り機能付き携帯電話でご利用できます。



あらためて、おはなしさせていただきます。

# 食べものと放射性物質のはなし

その1

新しい基準値



つくると、たべるを、ささえる。まもる。



# みんなが食べるものだから、放射性物質の基準値を設定して、きちんと検査し、公表しています。

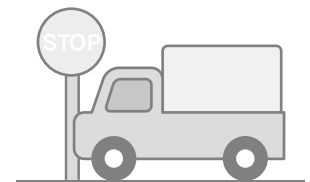
基準値を超えた場合には、  
地域や品目ごとに出荷を止めています。

基準値を超える食品が、地域的に見つかった場合には、地域や品目ごとに出荷制限を行い、流通を止めます。

現在は、汚染が低下した結果、基準値を超えて検出されているのは、一部の地域の、山菜類、原木しいたけ、淡水魚、海の底にすむ魚など、ごく一部の品目\*だけです。こうした品目は、地域ごとに、出荷を止めています。

(※2012年8月21日現在)

各地での検査は、作物の出荷が始まる直前に行うなど、基準値を超える食品が市場に出回ることをな  
いよう工夫をしています。



では、食品を切り刻み、大がかりな機器を用い、長時間測定しています。できるだけ検査体制を拡充しながら、放射性物質が検出される可能性の高い品目や、食べる量の多い品目の検査を、よりきめ細かく行っていて、件数は、月平均約1万8千件\*にのぼります。(※2012年4～7月実績)  
検査結果はとりまとめて、すべて厚生労働省のホームページ「食品中の放射性物質への対応」で公表しています。

## 子どもをはじめ、すべての年齢の方に配慮して、基準値を設定しています。

一般食品の基準値は、影響を最も大きく受ける、食べ盛りの13～18歳の男性の食生活などのデータに基づいて決めました。  
もし、乳幼児が、基準値の放射性物質を含む食品を食べ続けたとしても、摂取量が少ないことなどから、年間に

受ける線量は大人の半分以下です。  
一般食品を子どもが食べても安全ですが、さらに一層の配慮として、「乳児用食品」や、子どもが飲むことが多い「牛乳」については、より厳しい基準値を設定しました。

放射性セシウムの基準値 (2012年4月から)

食品群	基準値 (1kgあたり)
飲料水	10ベクレル
乳児用食品	50ベクレル
牛乳	
一般食品	100ベクレル

シーベルト:放射線による人体への影響の大きさを表す単位  
ベクレル:放射性物質が放射線を出す能力の強さを表す単位